

報道関係者各位(参考資料)

2012年(平成24年)11月30日

「セリン」の新規有効性「抗うつ効果」を発見 2012年9月28日～29日に開催された 日本アミノ酸学会第6回学術大会にて優秀ポスター賞を受賞

株式会社ファンケル(本社:横浜市中区、代表取締役社長執行役員:成松義文)では、これまでセリンに関する様々な研究を行い、「抗不安効果」や「催眠効果」を明らかにしてまいりました。

今回、九州大学大学院農学研究院 古瀬充宏教授との共同研究により、セリンの抗うつ効果について検証した結果、セリンを摂取することで、うつを軽減する可能性があることが明らかになりました。

以下に研究の概要および結果をお知らせいたします。

研究の概要

【研究の経緯と目的】

セリンは、胎児脳の発達や神経栄養因子として「脳にとっての必須アミノ酸」と言われています。これまでにセリンによる抗不安効果および催眠効果を解明し、現在、当社の睡眠サポート商品「セリンドリンク すやりん」に配合しております。本研究では、新たなセリンの有効性を探索するため、セリンの「抗うつ効果」を検証いたしました。

【研究の方法】

九州大学にて、うつ様モデルのラットにセリンを1回与えた後、水泳試験^{*}を行い、不動時間を測定することにより、うつ行動を評価いたしました。また、セリンを含有した水または含有していない水を長期間(1ヵ月)与えた後にも同様にうつ行動を評価いたしました。

【研究の結果と考察】

セリンを1回与えた場合(図1)、長期間与えた場合(図2)いずれにおいても、与えていない場合に比べて不動時間が短くなることから、セリンを摂取することでうつ症状が軽減される可能性があることが分かりました。

(株)ファンケル

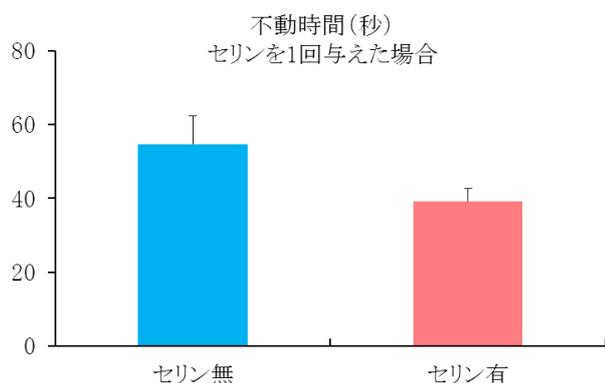
本社:神奈川県横浜市中区山下町 89-1

代表取締役社長執行役員:成松 義文

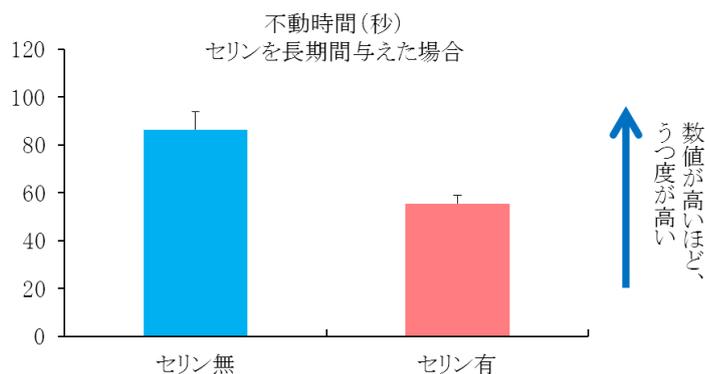
設立:1981年8月

本件に関するお問い合わせ

広報グループ 三澤敬之・岩本浩昭:045-226-1230



【図1】セリンを1回与えた場合のうつの評価



【図2】セリンを長期間与えた場合のうつの評価

【研究発表と今後の展開】

本研究内容は、九州大学大学院農学研究院 古瀬充宏教授との共同研究であり、2012年9月28日～29日に開催された日本アミノ酸学会第6回学術大会にて「L-セリンの単回および長期給与はWistar Kyoto ラットならびにWistar ラットにおいて抗うつ様効果を誘導する」として発表し、優秀ポスター賞を受賞いたしました。当社では今後も、セリンの研究を進めてまいります。

用語説明

※ 水泳試験

ラットやマウスを水中に入れ、その後の行動を検証する試験。

本件に関するお問合せ先

株式会社ファンケル

社長室 広報グループ 三澤敬之・岩本浩昭

TEL:045-226-1230 FAX:045-226-1202

〒231-8528 横浜市中区山下町 89-1